

(3)

老人福祉・介護での倒産が55件と最多

19年上半期 訪問事業は急増32件

東京商工リサーチによると、2019年上半期（1～6月）の「老人福祉・介護事業」の倒産が55件となり、過去最多だった18年同様の45を大きく上回り、過去最多を更新しました。

なかでも人手不足が深刻な訪問介護事業者の倒産が32件（前年同期18件）と急増しています。東京商工リサーチでは、この状況で推移すると2000年以降で年間最多となった、17年（111件）を上回る可能性がある指摘しています。

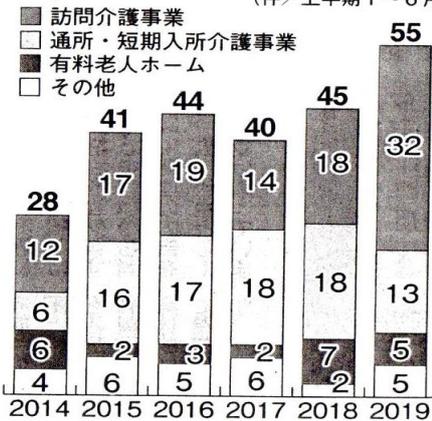
業種別の倒産状況は最多の「訪問介護事業」に次いで、デイサービスなどの「通所・短期入所事業所」が13件（前年同期18件）、「有料老人ホーム」が5件（同7件）など。負債総額は109億9300万円と、前年同期の約2.7倍となりました。負債59億円の大型倒産が押し上げたことが主な原因で、倒産し

た55件の内8割の44件は負債1億円未満の小規模事業者が占めています。

従業員数では5人未満が36件（前年同期比38.4%増、前年同期26件）で全体の7割。

東京商工リサーチは「老人福祉や介護事業者には、介護サービスを待つ人々がいることを忘れてはならない。『老人福祉・介護事業』の倒産増加は、サービスをj受ける介護者が不利益を受けるケースが増える」厳しく指摘しています。

「老人福祉・介護事業」の倒産件数の推移 (件/上半期1～6月)



資料:朝日新聞

夏休み保健講座開催

8月5日(月) 第1回 「からだの不思議を学ぼう」

第1回は「からだの不思議を学ぼう」聴診器を使って心音を聞いたり、エコーを使って実際の心臓の動きをみてもらいました。

エコーを目にするのはみんな初めてだったようで「こんなの初めて!」「赤ちゃんがいるとき写真で見たことがある」などの声が上がりました。



8月24日(土) 第2回 「タバコの害について」

第2回は「タバコの害について」をテーマに体験学習を実施しました。タバコの学習はストローを使って体験学習を実施。喫煙のリスクや健康の大切さを学んでもらいました。



夏休み子ども食堂&寺子屋@にじの家サロン
(7/23, 30, 8/6, 20, 27)

夏休み期間で
125名

夏休みの宿題の他、栗東市社協ボランティアのにこにこくらぶ様より紙芝居・読み聞かせやクイズ、栗東市在住組合様の協力で農業体験、栗東支部組合員の皆様による手作りおやつ体験など体験型企画満載で実施しました。夏休み期間子ども食堂を開催するにあたり体験の他組合員の皆様から、ジャガイモ・玉ねぎ、カレールーや保存用ビスケットなど食材、将棋や囲碁のセットをご寄附して頂きました。ご協力に深く感謝致します。

